

早急に北京五輪に向けた套路競技の内容を 「特別決議」北京で国際武術連盟と協議

日本連盟は、1月25日に行われた第28回通常総会において、全会一致承認された特別決議「<2008年北京オリンピックに関する国際武術連盟への緊急提案>」を、国際武術連盟(IWUF)に送り、具体的協議が1月27日午後、北京にあるIWUFの本部会議室で行われた。

日本連盟から村岡久平副会長(IWUF理事)と石原泰彦理事(IWUF技術委員会委員)、IWUFから厳建昌事務総長(中国武術協会副会長)、李雅佩会長補佐(中国武術協会副会長)、黄凌海技術委員会主任(中国武術協会秘書長)らが出席した。

日本側から「特別決議」を採択した経緯を説明し、IWUF執行部と中国武術協会との現況について共通認識のうえに立って、具体的にいくつかの活動を推し進めていくことを確認しあった。

IWUFは「特別決議」で提案された、国際オリンピック委員会(IOC)に申請している、套路8種目(男女各4種目)の北京五輪に向けた套路競技の内容について、早急に試案の製作を急ぐことで一致した。

IWUF執行部と中国武術協会は、昨秋の日本連盟が全国的に展開した署名と募金活動に示された、北京五輪に武術太極拳の採用に向けての熱い思いと、さらに今年早々の「特別決議」など、積極的な姿勢を一段と表明している日本連盟に敬意を表した。

双方は今後一層緊密な連携のもとに当面の諸問題に立ち向かっていくことを確認した。

全日本選手権で競技用套路 中国優秀選手団が特別演武

7月18日から20日まで東京体育館で開かれる「第20回全日本武術太極拳選手権大会」に、日本連盟の招きで、約10人からなる中国の優秀武術選手団が来日する。一行は最終日の20日「特別模範演武」を行う。

同模範演武ではIWUFが北京五輪に向けた武術太極拳の套路競技の内容の試案を披露する。来日する選手団は、世界、アジアや中国の武術選手権でチャンピオンを獲得したレベルの高い一行で構成される予定。

東京での試演後、1月上旬マカオでの「第7回世界武術選手権大会」の際、参加した各国選手団に套路競技の内容を示し、そのうえで最終案をまとめ、IWUF技術委と同理事会で確定させていく予定で進める。

最終案がまとまった段階で、ビデオテープを製作・各国に配布し、2008年に向けて選手の養成と訓練を行うことにしていく。

日本連盟機関誌「武術太極拳」2003年2月号、159より。